ＦＳＨ注射回数を減らした和牛の過剰排卵処理方法の簡易化							
［要約］和牛の過剰排卵処理におけるＦＳＨの注射回数は、１日１回の３日間注射でも現行法の１日２回の３日間注射と同様に胚が回収でき、処理方法の簡易化が図られる。							
三重県農業技術センター　畜産部　家畜改良繁殖担当					連絡先	05984-2-2029	
部会名	畜産・草地	専門	繁殖	対象	肉用牛	分類	指導

［背景・ねらい］

ＦＳＨ製剤は投与後約12時間で血中から消失するといわれている。このためＦＳＨ製剤を用いた過剰排卵処理では１日２回、３～４日間漸減的に投与する方法が一般的であり、ＰＧＦ2α投与を含めると１頭に７回～10回注射しなければならない。この方法では術者が時間的に拘束されるなど煩雑であること、牛へのストレス負荷が大きいことから、注射回数を減らした過剰排卵処理方法の簡易化について検討する。

［成果の内容・特徴］

1．平均回収胚数、平均正常胚数、及び平均Ａランク胚数は１日１回３日間注射でも１日２回３日間注射と差がない（表１、表２）。

2．ＦＳＨを30％ＰＶＰと混合して投与する１回注射は、ＰＶＰの調整やＦＳＨとの混合が煩雑であり、胚の回収にバラツキがある（表１）。

3．以上のことから、省力化及び人件費や注射器具等の節減による低コスト化が図られ、１日１回３日間注射が簡易で実用的である。

［成果の活用面・留意点］

1．乳牛への応用は、今後検討の必要がある。

[具体的データ]

試験区分

区　分	方　　法
6回注射区 （現行法）	ＦＳＨ－Ｒ　計２４ＡＵを２回／日×３日間 頸部皮下に漸減投与（５・５、４・４、３・３ＡＵ） ３日目にＰＧ－Ａ　0.6㎎を頸部筋肉内投与
3回注射区	ＦＳＨ－Ｒ　計２４ＡＵを１回／日×３日間 頸部皮下に漸減投与（１０、８、６ＡＵ） 3日目にＰＧ－Ａ　0.6㎎を頸部筋肉内投与
1回注射区	ＦＳＨ－Ｒ　３０ＡＵを１㎖生食で溶解 ３０％ＰＶＰ９㎖と混合、頸部皮下に全量投与 ２日後ＰＧ－Ａ　0.6㎎を頸部筋肉内投与

表１　胚回収成績

試　験　区	処理頭数	平均回収胚数	平均正常胚数	平均Ａランク胚数
6回注射区	１１	7.7±4.3	5.3±3.2	4.2±2.9
3回注射区	５３	7.2±5.4	5.1±4.3	4.2±3.6
1回注射区	１７	6.2±5.3	4.1±5.1	3.5±4.6

表２　ランク別胚回収割合

（％）

試　験　区	A	B	C	D
6回注射区	54.1	11.8	2.4	31.8
3回注射区	57.3	10.9	1.8	29.9
1回注射区	56.6	4.7	3.8	34.9

A：優良胚　B：普通胚　C：不良胚　D：変性胚・不受精卵

[その他]

研究課題名：牛の良質胚多量確保技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成７年度（平成５～７年）

研究担当者：西　康裕　、余谷行義